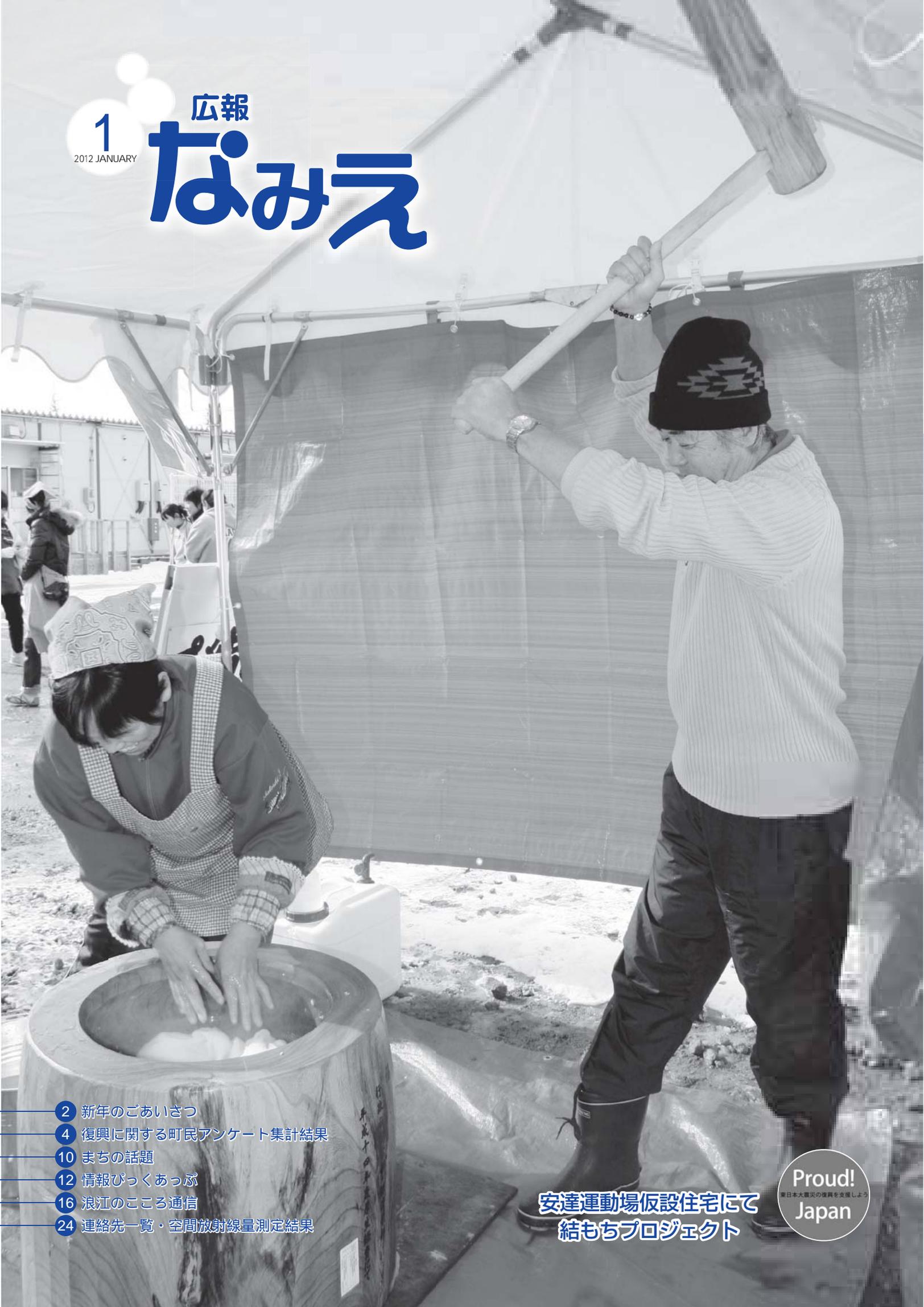


1
2012 JANUARY

広報
なみえ



- 2 新年のごあいさつ
- 4 復興に関する町民アンケート集計結果
- 10 まちの話題
- 12 情報ぴっくあっぷ
- 16 浪江のころ通信
- 24 連絡先一覧・空間放射線量測定結果

**安達運動場仮設住宅にて
結もちプロジェクト**



謹賀新年辰



迎春

浪江町長
馬場有

有



昨年の3月11日の大震災により避難を余儀なくされ、不自由な生活を強いられつつ、新年を迎えました。例年ですと清澄な空気の中、一家団らんでお正月を迎えるはずですが、今年はそれもままならず悔しいお正月となりました。しかしながら、それにめげず豊かなふるさと「なみえ」を振り返り希望を持って前に進んでいきたいと思います。

今年は、町にとつて、厳しい険しい道が続く正念場になると考えます。昨年末の「ステップ2」の終了宣言により、避難区域の新たな見直しが行われます。また、除染の「モデル事業」が本格的に行われ、放射線量の低減化がどの程度効果をもたらすのか、

その結果が出ます。それによっては、いつ帰町できるのかもはっきり明示されず、損害賠償も「紛争審査会」の答申がでるでしょう。いずれも、町民の皆さまの思いをしつかりと町としてサポートしてまいります。さらに、昨年10月から「浪江町復興検討委員会」が開かれており、本年3月には「復興ビジョン」がまとまります。町民アンケートならびにパブリックコメントを参照して、具体性をもつて提示できるよう努めます。

今、この稿を書くにあたって、ヨウガの達人である中村天風先生の言葉を思い出してあります。先生曰く「新しき計画の成就是、只不撓不屈の一心にあり。さらばひたむきに想え、

気高く、強く一筋に」とあります。この言葉を肝に命じ、この困難に負けることなきよう、身を引き締めて対処したいと存じます。結びに、皆さまの要求・要請の実現にむかって国を動かし、東電に猛省を促し、全面賠償させるべく活動していきます。心が痛みますが、皆さま方にとりまして、本年一年がひとつでも幸が多い年になれますようご祈念し、ごあいさつといたします。



新年を迎えて

浪江町議会議長
吉田数博

新春とは名ばかりと感じる平成24年を迎えました。故郷を離れて新春を迎えられた皆さま方のお心はいかばかりかと拝察いたします。

昨年は文字通り、激震の年でありました。震災により本町においては184名の犠牲者と633戸の家屋全壊をもたらし、福島第一原発事故により全町民避難という大災害が発生した年でありました。

原発事故収束作業のステップ2は終了したとはいえ、本当の意味での事故収束はまだ見通しが立たず、帰還の条件である除染においても、除染モデル実証事業が緒にいたばかりであります。震災以降、議会の事故対応活動については、今までの議会報

議会報告を通じてお知らせした通りであります。特に県内外の町民との懇談会を開催（40カ所において約1500名参加）しました。いただいた要望、要求を国、県、町、東電に要望書、要求書の形で全町民の意見として届けてまいりました。

今避難の長期化が予想される中、町民の方々の思いはさまざまかと思えます。町、議会もそれぞれの町民の思いに対応すべく多種多様な対策が必要となります。

当面の課題として、住環境の整備と生活支援、帰町にむけた除染、賠償とりわけ精神的被害賠償、財物損失賠償、健康管理、子どもたちの教育環境の整備など数限りない課題があります。どれひとつ取っても難題であり

ますが、町ともども全力で取り組んでまいります。

今後、避難区域の見直しをめぐる動向については、避難指示解除準備区域、居住制限区域、帰還困難区域の設定が予想され、さまざまな対応が必要となりますが、この件に関しても、しっかりと対応してまいります。

心の痛む日々が続くことと思いますが、「明けぬ夜はない」の言葉どおり、町民の絆を大切にこの難局を乗り越えなければなりません。浪江町民の底力を信じ、故郷なみえの再生を信じ、1日も早い安全・安心で平穏な日々が訪れますことを祈念し年頭のごあいさつといたします。

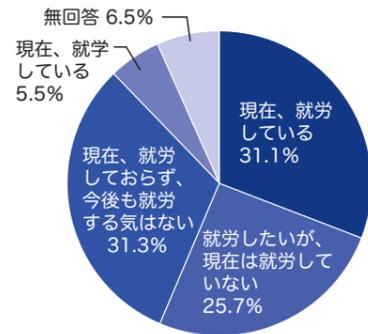
浪江町議会議員

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|-----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 馬場 | 佐々木 | 三瓶 | 勝山 | 小黒 | 佐々木 | 紺野 | 佐藤 | 鈴木 | 渡部 | 田尻 | 橋爪 | 泉田 | 渡邊 | 横山 | 若月 | 山本 | 山崎 | 愛澤 |
| 英 | 寶 | 一 | 敬 | 恵 | 榮 | 文 | 辰 | 貞 | 良 | 光 | 重 | 文 | 精 | 芳 | 幸 | 博 | 格 | |
| 績 | 夫 | 次 | 美 | 三 | 寿 | 重 | 子 | 行 | 信 | 作 | 雄 | 章 | 星 | 一 | 則 | 郎 | 文 | |

問2 就労・就学と避難生活状況

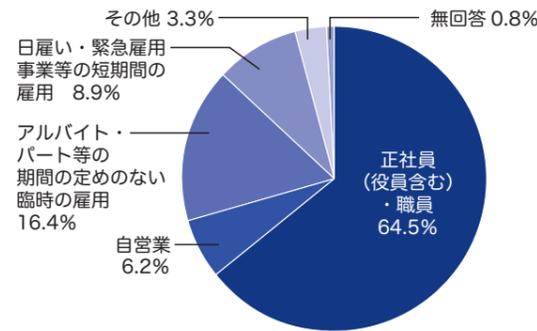
問2-1 現在、あなたは就労・就学していますか。

「現在、就労している」は31.1%。一方「就労したいが、現在は就労していない」は25.7%である。また、「現在、就労しておらず、今後も就労する気はない」は31.3%である。



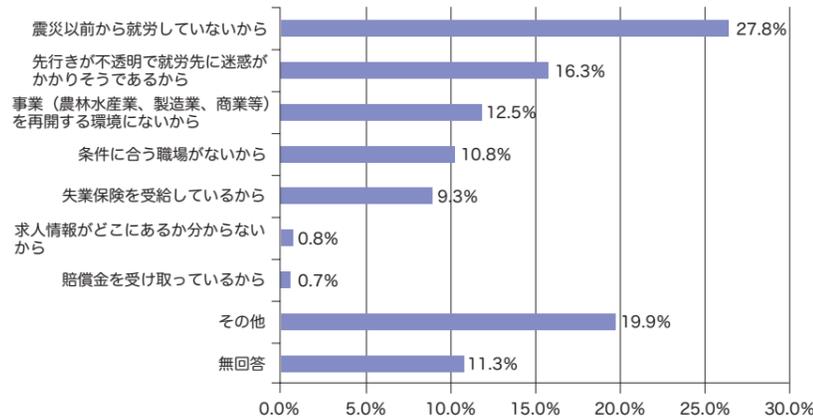
問2-2 現在就労している方にうかがいます。あなたの就労形態について教えてください。(就労している方 3,083人)

「正社員・職員」が64.5%と過半を占める。「アルバイト・パート等の期間の定めのない臨時の雇用」は16.4%、「日雇い・緊急雇用事業等の短期間の雇用」は8.9%と少ない。



問2-3 就労していない方にうかがいます。就労していない理由について教えてください。

「震災以前から就労していない」が27.8%と最も多い。一方、震災以前は就労していたのに現在就労しない理由としては、「先行きが不透明で就労先に迷惑がかりそう」(16.3%)、「事業を再開する環境にない」(12.5%)、「条件に合う職場がない」(10.8%)など多様である。「失業保険を受給している」は9.3%、「賠償金を受け取っている」は0.7%と少ない。

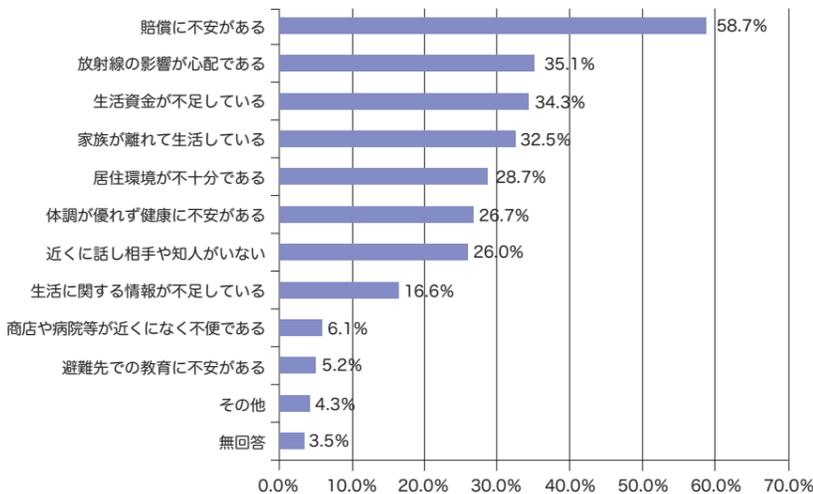


<「その他」の記述>

- ・高齢のため。(290件)
- ・病気、体調不良のため。(91件)
- ・子どもが小さい、預ける場所がない。(78件)
- ・年金受給のため。(60件)
- ・親族の介護、要介護、障がいがある、看病などで就労できない。(47件)
- ・会社が休業中のため。(45件)
- ・就労先が見つからない。(20件)
- ・働く気になれない。(11件)
- ・生活が落ち着かない。先が不安だから。(10件)など

問2-4 現在の避難生活でのお困りのことはなんですか。(複数回答)

「賠償に不安がある」(58.7%)が最も多い。このほか「放射線の影響が心配」(35.1%)、「生活資金が不足している」(34.3%)、「家族が離れて生活している」(32.5%)「居住環境が不十分である」(28.7%)など困りことは多様である。



<「その他」の記述>

- ・先が見えず不安。避難によりストレスがたまる。(58件)
- ・情報提供不足、支援の格差を感じる。(23件)
- ・すべて困っている。(20件)
- ・いつ浪江に戻れるのかが不安。またその後の生活も不安。(12件)
- ・勤務地までが遠い。(12件)
- ・中通りの冬の生活が不安。(10件)
- ・介護の充実など高齢者のケアが不安。(10件)
- ・学校(サテライト校含め)が遠い。子どもの将来や学習機会の不安。(9件)
- ・一時帰宅の回数が少ない。荷物制限への不満。もっと自由に出入りさせてほしい。(7件)
- ・家族が同居または離れて生活している弊害。(7件)
- ・住宅ローン等の支払い。(6件)など

復興に関する 町民アンケート

集計結果

11月に実施した復興に関する町民アンケートの集計結果の概要をお知らせします。この結果は、「浪江町復興ビジョン」策定に役立てていきます。

調査目的

福島第一原発事故により避難生活を送る町民の皆さまの避難生活での課題や要望、浪江町への帰還に対する意識、今後の復興・復興への意見を把握するために実施しました。

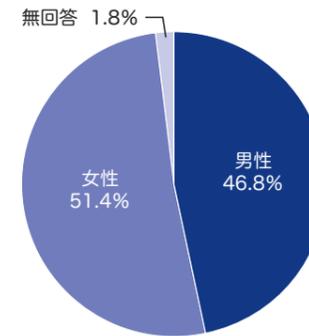
調査対象 高校生以上の全町民

調査方法・時期 郵送により配布・回収(平成23年11月)
 配布数 18,448名
 回収数・率 11,001(59.6%)
 その他 設問の終わりに(複数回答)とある問いは、1人の回答者が複数の回答をしているため、回答の合計比率が100%を超える場合があります。

問1 アンケート調査対象者

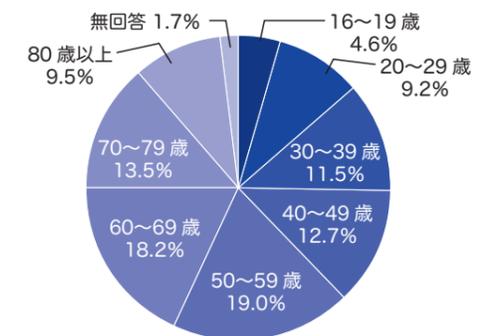
性別

回答者の性別、年齢層に大きな偏りはない。



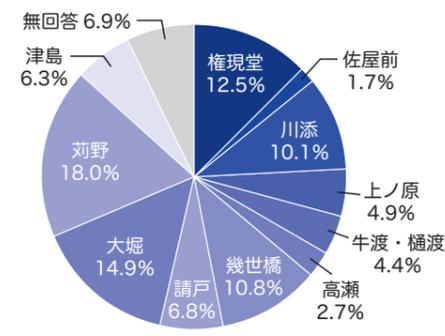
年齢層

世帯単位で実施した福島大学のアンケート(男性、高齢者中心)と比較すると町民の人口構成が反映されている。



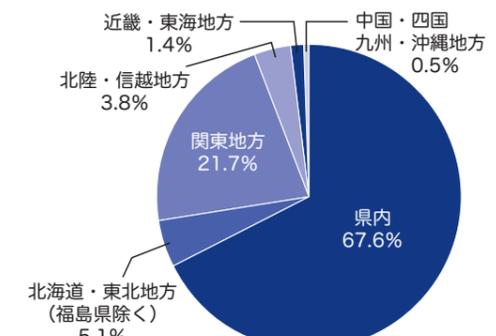
浪江町での居住地区

「苧野」(18.0%)、「大堀」(14.9%)、「権現堂」(12.5%)、「幾世橋」(10.8%)、「川添」(10.1%)の順で回答が多い。



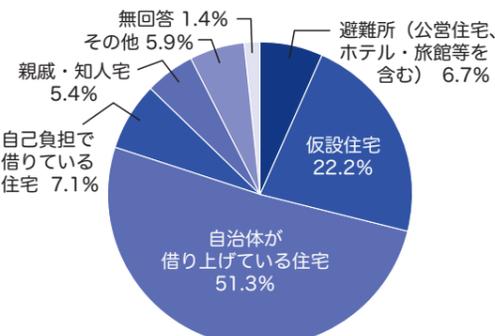
避難先の都道府県

「県内」が67.6%と町民の半数以上は福島県内に避難している。次いで、「関東地方」が21.7%と多い。



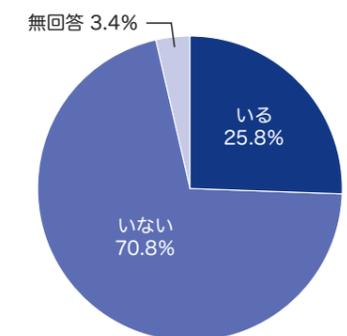
避難先の居住種別

「自治体が借り上げている住宅」が半数強(51.3%)を占める。「仮設住宅」は22.2%。

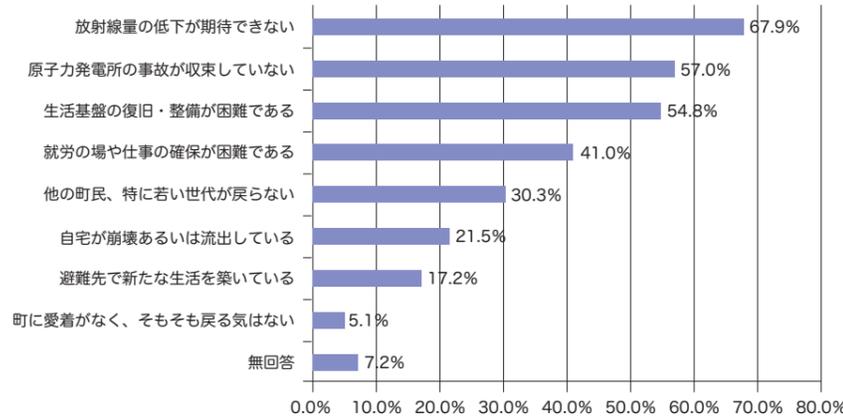


家族(18歳未満のお子さんの有無)

18歳未満のお子さんが「いる」は25.8%、「いない」は70.8%。



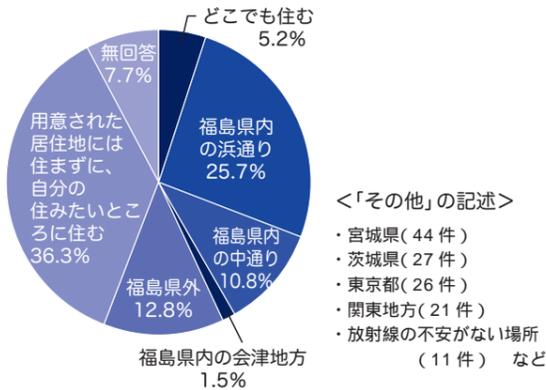
問3-4 戻るの難しいと思う理由について教えてください。
(「戻らない」を回答された方 3,616人)



「放射線量の低下が期待できない」(67.9%)、「原子力発電所の事故が収束していない」(57.0%)、「生活基盤の復旧・整備が困難である」(54.8%)が比較的多い。現時点で、国等の対策が進んでいない代表的な分野であり、具体的な成果が示されていないことが大きく影響していることが推察される。

問3-5 浪江町民向けに、仮に国や県等によって居住地が用意された場合、どこなら住みますか。
(「戻らない」を回答された方 3,616人)

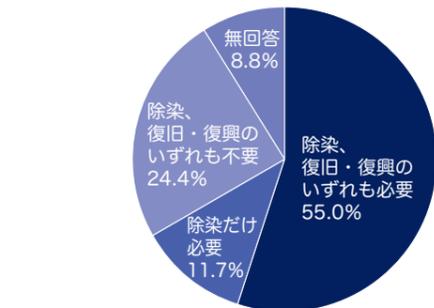
用意されれば住む地域としては、「浜通り」が25.7%、「中通り」が10.8%等と福島県内が38.0%と4割弱を占め、福島県外は12.8%となっている。福島県内の中では、住み慣れた浜通りが大多数となっている。一方、「自分で住みたいところに住む」が36.3%であり、それぞれに応じた場所に対するニーズも高い。



問3-6 他の地域に住まわれる場合、浪江町の除染や復旧・復興は必要だと思いますか。
(「戻らない」を回答された方 3,616人)

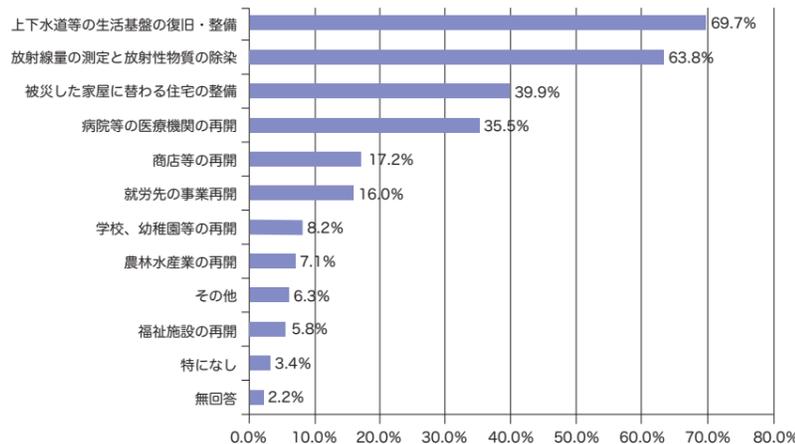
「除染、復旧・復興のいずれも必要」が55.0%と過半を占める。「除染だけ必要」は11.7%であり、除染が必要とする方は66.7%に上る。一方、「除染、復旧・復興のいずれも不要」は24.4%(※)である。町に戻らないと答えた町民であっても、多くの町民が「ふるさとみえ」の再生を希望している。

※「いずれも不要」は回答者全体の8.0%



問4 浪江町の今後の復興について

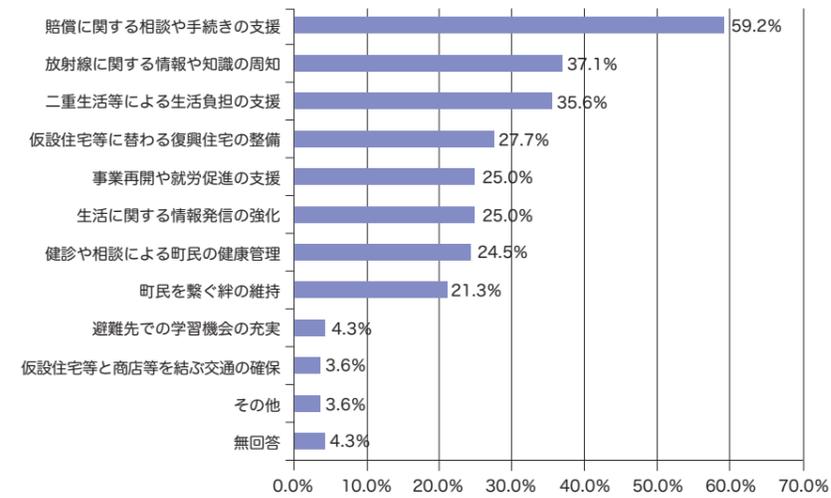
問4-1 浪江町の復興に向け、当面、どのような施策が必要ですか。
(複数回答)



「上下水道等の生活基盤の復旧・整備」(69.7%)、「放射線量の測定と放射性物質の除染」(63.8%)が多い。次いで、「被災した家屋に替わる住宅の整備」(39.9%)、「病院等の医療機関の再開」(35.5%)である。

<「その他」の記述>
 ・すべて必要。(278件)
 ・浪江町の復興はできないと思う。(58件)
 ・集団移転し、新天地で復興する。(40件)
 ・早急な賠償(土地、家、財産)。(28件)
 ・除染による放射線量の低下。(14件)
 ・上下水道、井戸水の汚染調査。詳細なモニタリング、汚染マップの作成。(7件)
 ・双葉郡一体となった復興。(3件) など

問2-5 避難生活の改善、向上に向け、どのような施策が必要ですか。
(複数回答)



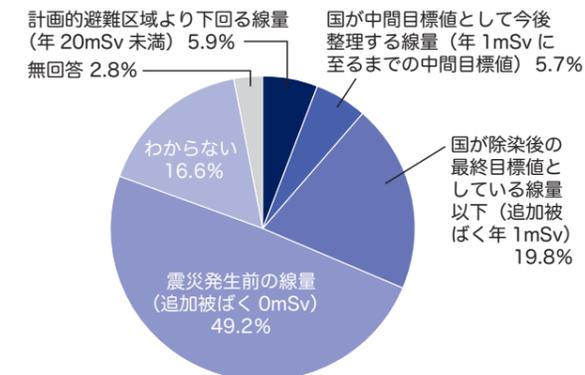
「賠償に関する相談や手続きの支援」(59.2%)が最も多い。このほか「放射線に関する情報や知識の周知」(37.1%)、「二重生活等による生活負担の支援」(35.6%)、「仮設住宅に替わる復興住宅の整備」(27.7%)が多く、困りごとを解決するための施策が求められている。

<「その他」の記述>
 ・支援格差(物質、情報提供)の解消(41件)
 ・先の見通しを示してほしい。(22件)
 ・賠償対策を重視すべき。(22件)
 ・すべて必要。(15件)
 ・借上げ住宅(県外、県内)仮設住宅の居住期間の延長(12件)
 ・町民が集まれる機会づくり。(8件)
 ・福祉施設、高齢者のケアを充実。(8件)
 ・町のインフラ整備や除染の実施。(7件)
 ・避難生活中のさまざまな支援充実。(4件)
 ・自立支援の充実。(4件) など

問3 浪江町への帰還について

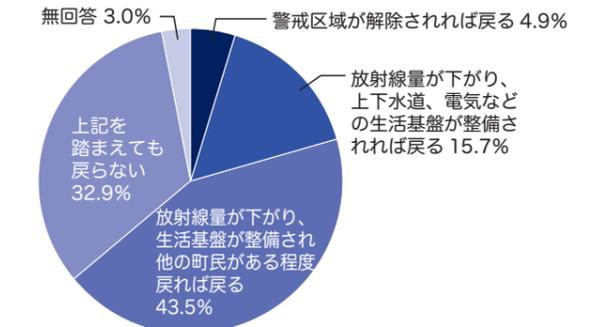
問3-1 現段階において、放射線量だけを考えた場合、戻っても良いと考える放射線量の水準はどれくらいですか。

「震災発生前の線量(追加被ばく0mSv)」が49.2%と最も多く、半数近くを占める。次いで「国が除染後の最終目標値としている線量以下(追加被ばく年1mSv)」(19.8%)である。

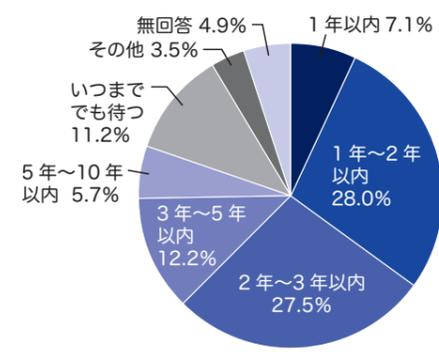


問3-2 あなたは浪江町に戻りたいと思いますか。

「放射線量が下がり、生活基盤が整備され、他の町民がある程度戻れば戻る」が43.5%と最も多く、半数近くを占める。また、「放射線量が下がり、上下水道、電気などの生活基盤が整備されれば戻る」は15.7%、「警戒区域等が解除されれば戻る」は4.9%であり、合わせると64.1%が条件さえ整えば「戻る」としている。一方、「戻らない」は32.9%である。戻るのが難しいと思う理由は、問3-4に記載。その分析が特に重要。



問3-3 どの程度の期間であれば待てますか。
(「戻る」を回答された方 7,051人)



「1年～2年以内」が28.0%、次いで「2年～3年以内」が27.5%と多い。これに「1年以内」(7.1%)を合わせると3年以内が62.6%となる。「5年～10年以内」は5.7%、「いつまでも待つ」は11.2%に留まっている。町民の多くは帰還するにしても短期間での実現を求めている。

<「その他」の記述>
 ・わからない、決められない。(35件)
 ・できるだけ早い時期に戻りたい。(17件)
 ・放射線量が下がり、安全が保障されるまで。(11件)
 ・何年で戻れるのが明確にしてほしい。(9件)
 ・戻りたい。でも迷いもある。(7件)
 ・子どもが成人、独立するまでの期間。(6件)
 ・高齢なのでいつまで待てるか不安。(5件) など

※震災発生の2011年(平成23年)3月からの期間です。

■復旧・復興に関する意見(1,119件)

- 復興は難しいと思う(元の浪江町には戻せない)。戻る人の復興計画だけでなく、戻らない人の復興計画や支援を。(190件)
- 浪江町に戻るのには不可能。戻っても若い世代が帰還しないため、復興は困難。土地と建物を売却し、集団移転をして別な土地で浪江町として復興した方がいい。(171件)
- 一日も早い復興を望む。必ず浪江町は復興できる。(164件)
- 生活基盤の復興だけでなく、雇用の場が大事。若い人が戻らなければ町は衰退し、存続できない。学校などの対策も必要。(72件)
- 町単独では、復興はできない。再生エネルギー等の誘致、特区制度など国や東電の支援、賠償による復興。(51件)
- 震災前の状況に復興すること。どんなこともあきらめてはいけない。農林水産業すべての復興が大事。(24件)
- 浪江町には戻らない。でも、復旧復興はして、いつでも戻れる場所になってほしい。(7件)

■役場(行政)に対する要望など(289件)

- 町として今後の方針を早く示してほしい。(111件)
- 職員の電話、窓口対応の不備。対応が遅い。電話が繋がりにくい。(26件)
- 国や東電の情報が信用できない。町は、町民のためにも正しい情報を開示してほしい。(12件)
- 町民の意見や要望を広く聞いて欲しい(広聴)(8件)
- 将来を担う子どもたちの意見を聞いてほしい。(2件)
- 放射能の正しい知識を身に付ける教育を実施すべき。(2件)
- 今後、この災害を子孫に伝えていくために、しっかりとしたマニュアル作り、防災・減災に努めてほしい。(2件)

■町長・議員に対する要望など(217件)

- 町長は、戻ることばかり考えないで他のことにも目を向けてほしい。(54件)
- 町議員数を削減し、復興のための組織を設立してほしい。(若い世代・有識者の参加が必要)(4件)
- 町議員の活動を報告してほしい。(3件)

■賠償に関する意見(536件)

- 土地、建物の賠償(補償)を進めてほしい。新しい土地での生活ができない。(229件)
- 町として、国、東電にしっかりと賠償を訴えて欲しい。(109件)
- 納得のいく賠償がされるのか不安。(30件)
- 今の除染技術では線量の低下が見込めない。莫大な費用をかけるのであれば、賠償に充てるべき。(23件)

1月上旬にアンケート結果の詳細と町と町民の暮らしの復旧・復興のためのビジョンの検討状況について別途お知らせする予定です。

■子どもの心身ケア、将来、教育に関する意見(97件)

- 浪江町に戻りたいが、子どもの将来や健康を考えると、安心して住める環境(すべての箇所放射線量が震災以前の状態)にならなければ戻ることにはできないと思う。(19件)
- 健康状態が心配。また、被ばく検査の場所が遠い・検査内容が他の行政と異なる点が不満です。(毎年内部被ばく検査を実施してほしい。)(11件)
- 震災時の幼稚園・保育園・小学校・中学校生徒を集めて、以前と同じ仲間です学校生活を再開してほしい。または、同様な仲間のつながりが持てるようにしてほしい。(10件)

■除染、モニタリングに関する意見(485件)

- 全町民が戻れるように、早急に、計画的に、積極的に除染を進めてほしい。(187件)
- 町内全域の除染は不可能。膨大な経費と歳月が無駄になるので、他に使った方がいいと思う。(142件)
- 町内全体(多くの箇所)での空間・土壌放射線量の測定公表。(プルトニウム含む)(15件)
- 除染は国・東電で実施すべき。(東電が除染に参加しないのはなぜですか?)(14件)
- 国は信用できないので、町で除染してほしい。(5件)

■健康管理に関する意見(59件)

- 避難中の体と心の健康が心配。(16件)
- 全町民を対象に被ばく量を計測してほしい。(14件)
- 被ばく手帳、線量計の配布など、将来的にはこのような対応をしてほしい。(7件)

■帰還に関する意見(1,124件)

- 戻れるのか、戻れないのか、戻り時期などを早く明確に決定して欲しい。(153件)
- 浪江町に戻るのか、戻らないのか、悩んでいる。(35件)
- 町民それぞれ状況が違う。浪江町に戻ることだけでなく、それぞれの復興が大事ではないか。(30件)
- 子どものことや仕事のことですぐには浪江町には戻れないが、何年か、何十年後には戻れるようになってほしい。(20件)

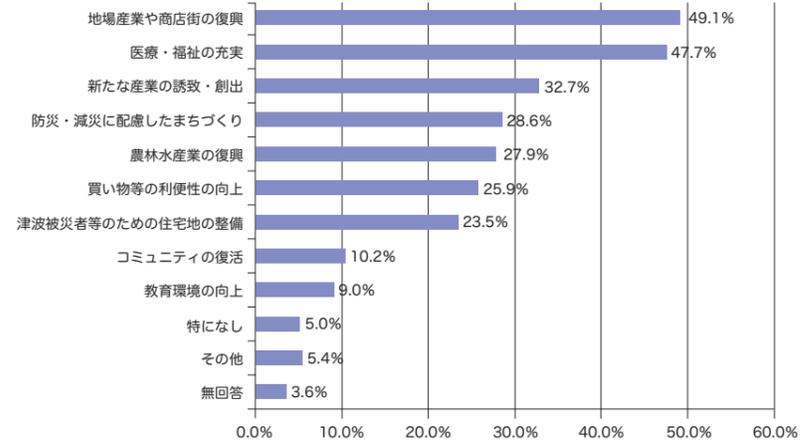
■原発に関する意見(208件)

- 原発事故の収束を早期に進めてほしい。(41件)
- 原発事故に関する(現在の状況・放射線量)正確で詳しい情報がすべて知りたい。(27件)

■その他の意見・要望など(317件)

- 町を震災前の状態、元の生活に戻してほしい。以前のような当たり前の幸せな生活をしたい。(39件)
- 浪江町を絶対に無くさないでほしい。(9件)
- 個人個人の意識の向上が必要(東電の賠償に頼らないなど)(8件)
- 町民の絆(繋がり)は維持していきたい。(6件)

問4-2 浪江町の復興の方向として、どのような町づくりが重要ですか。(複数回答)



「地場産業や商店街」(49.1%)、「医療・福祉の充実」(47.7%)が多い。次いで「新たな産業の誘致・創出」(32.7%)、「防災・減災に配慮したまちづくり」(28.6%)、「農林水産業の復興」(27.9%)の順である。産業復興を重視したまちづくりが求められている。

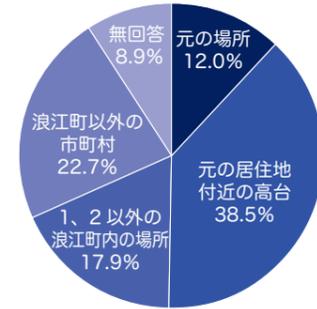
<「その他」の記述>

- ・すべて重要。(229件)
- ・集団移転し、新天地で復興する。(34件)
- ・浪江町の復興は無理だと思う。(32件)
- ・除染をし、放射能の不安を払しょくし、安全・安心な町にする。(32件)
- ・脱原発、また原発雇用で替わる雇用の創出。(13件)
- ・中間貯蔵施設、最終処分場の誘致。(4件)
- ・放射線や除染の研究施設、企業の誘致。(4件)など

問5 津波被害

問5-1 津波被害にあわれた方の住みたい場所(津波被害にあわれた方 942人)

「元の居住地付近の高台」が38.5%と最も多い。「元の場所」(12.0%)、「前記以外の浪江町内」(17.9%)を合わせると浪江町内を希望する町民が68.4%を占める。一方、「浪江町以外」は22.7%である。



問6 自由意見

※多くの皆さまに記入いただきました。一部抜粋して掲載します。

■避難生活の支援に関する意見

【仮設住宅に関すること(109件)】

- 仮設住宅の設備に関する不満(狭い、寒い、駐車場が足りない等)。(54件)
- 仮設での生活はプライバシーが無く、ストレスがたまる。精神を病んでしまう。(6件)
- 仮設住宅によって設備に差があり、不満だ。(4件)

【今後の仕事、生計に関すること(136件)】

- 就労支援及び生活基盤の確保をし、早く元の生活に近い状態に戻りたい。(39件)
- 避難生活は、まったく先が見えず不安。生活の見通しが立てられない。(31件)
- 家族とバラバラの生活であり、生活費の不安。雇用がなければ戻れない。(10件)

【一時立入に関すること(106件)】

- 自由に入出入りできるようにしてほしい。(条件付きでも)(39件)
- 今後も継続し、次回の立入までの期間を短く定期的に言ってほしい。(19件)

【支援の格差に関すること(255件)】

- どこに住んでいようと(借上げ、知人、親戚宅、社宅)平等の支援をしてほしい。また、他町村より浪江町は支援が少ないと思う。(203件)
- 県外避難者に対する支援や情報が不十分。もっと県外にも目を向けて欲しい。(23件)
- 世帯主以外にも支援物資等を配ってほしい。(3件)

【町からの情報提供に関すること(101件)】

- 町からの情報・広報に関して、避難者すべてに平等かつ速やかにさまざまな手法で情報発信してほしい。(46件)
- 国・東電の今後の対応・対策・収束状況について、その都度情報が知りたい。(6件)
- 借上げ住宅に避難している町民への、速やかな情報の発信・交流・支援等(町民ネットワーク)を構築してほしい。(3件)

【その他の意見・要望(270件)】

- なれない土地での避難生活はストレスがたまり、不安ばかりが募ります。(家族一緒に暮らしたい。)(43件)
- 町民が集まれる機会づくり、老人会などのコミュニケーションの場を設けてほしい。(33件)
- 仮設住宅ではなく、復興住宅(集合住宅)を福島県内に早く作ってほしい。(15件)
- 高齢者への、医療福祉支援体制の強化。(7件)



興化市から思いを込めて

11月20日、政協興化市委員会副主席 余 建年^{ヨケン}団長率いる14名の訪問団から友好記念品が届けられました。

これは、興化市内での義援金活動により、お金ではなく永久に残る品でと贈られたもので、友好都市締結から現在までの交流の歴史など、町民に対する興化市民の思いが表されています。

「浪江町の皆さんが一日も早く落ち着いた生活を取り戻せますように。今後も友好関係がさらに深く発展していくことを願います。」とおっしゃっていました。



安心安全守ります

11月30日、スーパーセンターベシア安達店（二本松市安達地区）で、なみえ（安達運動場仮設住宅）安全安心パトロール隊（隊長 高橋政雄さん）の発隊式が行われました。

同隊は、安達運動場仮設住宅に入居している住民22名で結成され、仮設住宅住民の安全確保と犯罪のない明るい地域づくりのため、週3回の定例パトロール活動などを実施しています。



復興願い「木幡の幡祭り」

12月4日、二本松市木幡地区で木幡の幡祭りが行われ、浪江町が特別参加しました。

このお祭りは、日本三大旗祭りの一つで、国指定重要無形民俗文化財に指定されています。

今年は、町関係者も参加し、「祈・復興 浪江町」の奉納旗をなびかせながら練り歩き、復興への思いを新たにしました。



双葉地方総決起大会

12月3日、いわき明星大児玉記念講堂（いわき市）で原子力災害の完全賠償を求める双葉地方総決起大会が開かれ、双葉郡住民約1,400人（浪江町民約250人）が集まりました。

大会では、賠償や健康保障を求める大会決議が採択され、国と東電に速やかな対応を求めました。



桑折町で元気に再会

11月30日、浪江町グラウンドゴルフ協会と桑折町グラウンドゴルフ協会の親善コンペが開かれました。

大会には、県内外から会員ら約30人が集まり、久しぶりの仲間とのプレーを楽しみました。

がんばれ!



まちの話題

おめでとうございます

浪江町消防団長 紺野榮重さん（北幾世橋）が、多年にわたり消防力の強化、消防活動の推進に努めた功績を称えられ、藍綬褒章を受章しました。

また、浪江町消防団が、東日本大震災の際の災害活動での功績を称えられ、総務大臣から表彰を受けました。



教育長などを歴任し、学校教育の発展にご尽力された遠原肇一さん（権現堂）が、秋の叙勲瑞宝双光章を受章されました。



北海道から支援野菜

12月12日、二本松市の各学校給食調理場に北海道帯広市から物資の支援としてメークインや玉ねぎ、ごぼうなどたくさんの野菜が届けられました。ありがとうございました。

二本松市内の浪江小・中学校の給食は、二本松市の東和給食センターで作られています。



マンガで元気に

岡山県高梁市教育委員会から浪江町の仮設住宅27カ所にマンガコミック3,600冊が届けられました。

11月23日～26日の4日間、高梁市の皆さんが各集会所（36カ所）を回り100冊ずつ寄贈しました。ありがとうございました。



ありがとうございました



NPO法人京都匠塾様（京都府南丹市：代表高橋博樹さん）から義援金が届けられました。

NPO法人京都匠塾は、京都伝統工芸大学の卒業生たちで組織され、自分たちの工芸品をオークション形式で販売した売上金などを義援金として届けてくださいました。役場二本松事務所には、南丹市を代表して、佐々木稔納市長が訪れました。



富士通インソテック株式会社様（FIT：伊達市）から富士通のデスクトップパソコン（伊達モデル）が届けられました。

同社の「ファミリーフェスティバル」に浪江町民が招待されたことをきっかけに交流が始まり、パソコンが不足していることを知って4台を寄贈してくださいました。



新日本管財株式会社様（会長 田代七郎さん）から仮設住宅等に入居している方々のために米やしょうゆ、みそなどが届けられました。（今回で3回目となります。）



福島民友新聞社様（代表取締役社長 神田俊甫さん）から県内外の皆さまからの義援金が届けられました。

「ありがとう」のメッセージ募集

3月11日の東日本大震災以降、私たち福島県民は、多くの方々からの復旧・復興支援活動や心あたたまる応援、励ましをいただきました。

その方々への感謝の気持ちを込めた「ありがとう」のメッセージを、福島県社会福祉協議会のホームページ上でご紹介させていただきます。皆さんからのご応募お待ちしております。

▽対象者

個人や団体、会社組織などなどなたでもご応募いただけます。

▽メッセージ内容

ご本人が「どのような状況で」「誰から」「どのような支援や励ましを受けたか」そのときのありがたうの気持ちを400文字程度にまとめてお伝えください。

*メッセージには、①題名 ②市町村名 ③お名前(団体名)を記入してください。また、メッセージと合わせて元気な写真もお待ちしています。(画像の容量は10MB以内に取りめてください。)

▽郵送先

〒960-8141
福島市渡利字七社宮1-1番地
福島県総合福祉センター内

浪江町仮設住宅進捗状況

(12月13日現在)

仮設住宅の進捗状況をお知らせします。

市町村	名称	建設完了戸数	既入居戸数	残戸数
桑折町	桑折駅前	286	213	73
	桑折町計	286	213	73
二本松市	郭内公園	100	98	2
	塩沢農村広場	98	78	20
	岳下住民センター	64	62	2
	旧平石小学校	82	65	17
	安達運動場	244	232	12
	建設技術学院跡	30	29	1
	杉田住民センター	33	28	5
	杉内多目的運動広場	234	143	91
	杉田農村広場	64	56	8
	大平農村広場	66	64	2
	永田農村広場	54	33	21
二本松市計		1,069	888	181
福島市	笹谷東部	182	160	22
	南矢野目	208	179	29
	北幹線第一	196	172	24
	森合町	18	15	3
	しのぶ台	112	46	66
	宮代第一	128	36	92
	宮代第二	48	17	31
	佐原地区	32	28	4
福島市計		924	653	271
本宮市	石神第一	57	30	27
	石神第二	80	23	57
	栗木平	27	20	7
	小田部	42	32	10
	和田石上	18	13	5
	高木	114	53	61
本宮市計		475	306	169
相馬市	大野台第8	93	93	0
	相馬市計	93	93	0
合計		2,847	2,153	694

問 住宅支援班 TEL 0243-62-0123

ごみの出し方

— マナーを守りましょう —

ごみの出し方は、地域によって異なります。収集日や収集時間、分別方法をよく確認し、マナーを守って出しましょう。

公益法人一時立入に関する放射線管理機器貸出

浪江町役場いわき出張所と南相馬出張所で公益法人一時立入に關わる放射線管理機器の貸し出しをしています。

貸し出しを希望される企業の方は、数に限りがありますので、各出張所にて予約をお取りになつてから、別途申請ください。いわき出張所

「ありがとう」の気持ち紹介係
※Eメールでの応募
thankyouform.f@gmail.com
TEL 024-523-1251

問 福島県社会福祉協議会
TEL 024-523-1251

原発事故損害賠償に関する障がい者のための学習会

皆さんの抱えている原発事故の問題、悩みなど具体的な事例について、弁護士からわかりやすく説明する学習および相談会です。

▽日時 1月29日(日) 13時～15時
(開場12時30分)
▽場所 ホテルハマツ 2階 福寿の間 (郡山市虎丸町3番18号)

▽対象者 ①原発事故で被害を受けた障がい者およびその家族
②①の損害賠償請求を支援する福島県内の障がい者団体、施設の関係者
③JDF被災地障がい者支援センターふくしまの構成団体の代表および会員
▽参加費 無料
事前申し込みが必要です。詳細はお問い合わせください。
問 JDF被災地障がい者支援センターふくしま内
福島県相談支援充実・強化事業 委託事業所 NPO法人 あいえるの会(宇田・橋本)
TEL 024-925-2428

福島県青少年総合相談センター

震災の影響による不安や悩みを抱える青少年の相談に応じます。ひとりで抱えこまないで、ご相談ください。ご家族の方の相談でも構いません。

相談は無料です。

■福島県青少年総合相談センター
▽場所 県青少年会館内
(福島市黒石字田部屋53番地5号)

▽相談方法 電話、FAX、メール、面接で相談できます。

TEL 024-546-0006
soudan-fukushima@gaea.ocn.ne.jp
※面接は事前予約が必要です。

▽相談時間

11時～18時
(土日含む。祝日、年末年始を除く。)

問 福島県青少年育成室
TEL 024-521-7187

国民年金保険料の免除

福島第一原発事故に伴い、避難指示・屋内退避指示を受けた市町村に平成23年3月11日時点で住所を有していた方は、ご本人からの申請に基づき、国民年金保険料が全額免除になります。

※平成23年2月分以降の保険料が該当します。
東日本大震災に伴う免除申請・学生納付特例申請(平成23年2月分からの審査)は、申請期間が平成24年3月末日まで延期されました。お早めに申請を

お願いします。

問 平年金事務所
TEL 024-6-23-5611

雇用・労災・労働年金に関する被災者支援無料相談会

▽日時 1月12日(木) 2月9日(木) 3月8日(木) 22日(木) 13時～17時

▽場所 県男女共生センター1階 特設会場

▽相談内容 東日本大震災および福島第一原発事故等による雇用・労災・労働年金に関すること。

問 福島県社会保険労士会 担当 丹治
TEL 024-535-4430

線量計の貸し出し

町では、線量計を貸し出ししています。使い方は簡単ですので、どなたでも気軽にご利用できます。

▷借用できる方 浪江町に住所を有する方
※申請者(窓口で手続きをする方)が借用者(実際に使用する方)と異なる場合も貸し出し可能です。また、浪江町に住所がない申請者でも手続きできます。

▷貸し出し期間 原則5日間
※借用者の都合により、適宜対応します。

▷受付時間 9時～17時
▷貸し出し場所
●浪江町役場二本松事務所 ※毎日貸し出し可。
●桑折出張所(桑折町役場2階)
●福島出張所(福島市役所9階西側)
●本宮出張所(白沢総合支所1階)
●いわき出張所(いわき市文化センター2階)
●南相馬出張所(旧東北農政局福島農政事務所 南相馬統計・情報センター)
※各出張所は、月～金曜日貸し出し。土日祝日は不可。

問 災害救援班(放射線管理)
TEL 0243-62-0123 TEL 090-3971-0492

お誕生

出生届は14日以内に(11月)

こどもの名(性別)	親の名	住所
牛渡 奏来 男	道生・絵美	北幾世橋
松本 翔 男	秀一・優子	樋渡
梶原 誉弘 男	寛数・町子	田尻
石川 遥雅 男	雅宏・知子	室原
玉野 睦翔 男	裕一・あゆみ	牛渡
藤田 心寿 女	政寿・寿美	権現堂

お悔み

死亡届は7日以内に(11月)

死亡者名	年齢	住所
本多 寅亥 84歳	南津島	
大井 スサ 87歳	権現堂	
日淺 博恵 80歳	権請戸	
浅間 フサ子 96歳	末森	
田中 克久 43歳	加倉	
神長倉 英世 83歳	室原	
今野 キヨ子 82歳	赤宇木	
安達 スギ 102歳	井室	
立川 トク子 80歳	権現堂	
吉野 フク 82歳	赤宇木	
今野 義壽 83歳	赤棚	
岡村 幸久 60歳	赤宇木	
今野 富夫 58歳	赤権	
郡司 忠明 85歳		

浪江町への義援金

12月14日現在、708件3億2,158万4,169円の義援金が寄せられています。このうち、2億7,547万円が町民の皆さまへ配分されています。皆さまの温かいご支援、ありがとうございます。

お詫びと訂正

広報なみえ12月号に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。(8頁) 祝成人式 津島地区 誤 佐藤朱菜 正 佐野朱菜
※新成人の皆さまのお名前は、成人式に出席される方のみご紹介しています。

こころの健康相談

不安で眠れない」「夜中に目が覚める」「考えがまとまらない」「何も手につかない」「食欲がない」など困りごとあれば相談しましょう。

◆精神保健福祉センター TEL 0570-064-556
◆福島いのちの電話 TEL 024-536-4343



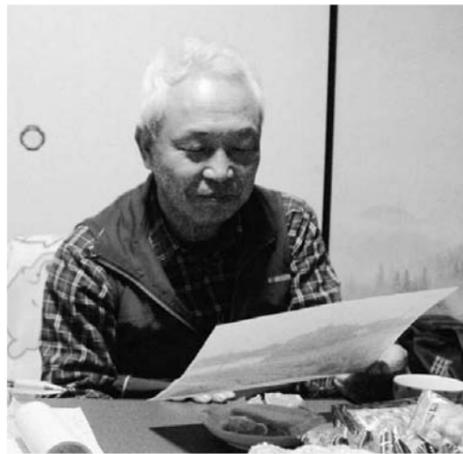
広島県

高田 秀光さん(室原)

取材者：ひろしま市民活動ネットワーク HEART to HEART 竹内・小川
取材日：11月23日

離れて暮らせど、心はいつも浪江にあり

浪江町室原に7人家族でお住まいだった高田さんご夫婦は、現在、東広島市志和町在住。息子さん夫婦と孫2人は広島市内、おばあちゃんは東京と離れて暮らす。志和町では田畑を借り、来春からの農業再開を目指して、働きながら有機栽培による野菜作りを学んでいる。



一時帰宅時の自宅写真を見入る高田さん

7人家族は県外避難
震災当日、仕事をしていたら地震がきました。すぐに高台の墓地へ避難しました。幸い自宅は海から8km離れていて、津波からは逃れることができました。その後は体育館へ避難し、当日の夜は電気もない体育館で家族みんな過ごしました。「地震が収まれば、1〜2日間ぐらいですぐに自宅に戻れる。」と軽い気持ちでいました。ところが、息子の友人が東電に勤めていて、電話で(原発が)危ないっていうんです。体育館にはテレビもラジオもなかったから、周りの誰もそんな話を信じませんでしたし

た。12日午後3時半過ぎに原発が(水素)爆発したとの話を聞いて、息子夫婦は2人の子どもの健康を考えて、先に福島を離れました。嫁いだ娘のいる広島へ。私たち夫婦もその後広島へ、ばあちゃん私の兄弟が住む東京へ行きました。でも今度、ばあちゃんもこちらで一緒に暮らすかと思っています。息子は広島市内で就職し、ときどき孫たちの顔も見ています。
広島でも白ネギを！
広島へ来てからは、田畑のある家を探しました。浪江では、早期退職後、専業で白ネギやインドキウリなどいろんな野菜を栽培していました。特に白ネギは人気があったし、これからのときに震災に遭ったというところもあって、広島でも野菜を作ろうと思ったんです。いろいろの方から田畑をご紹介いただきながら、あちこち探し回って見つけたのが、ここ志和町。なだらかな山の景色や川との風景がとても良く、米と水もおいしくて、とてもいい所です。今は、東広島市内にある農業法人で働きながら、来春からの野菜

作りは備えています。機械も手に入りました。福島県人会の集いに参加したことで、野菜の有機栽培の情報が入手できたので、有機栽培でやってみようと思っています。
今、思うこと
震災後のこの8カ月は長かったです。これまでに2度の一時帰宅をしましたが、2度目に戻ったときには、茎の太くなった雑草が生い茂っていました。広島では(広島市の)社協さんが被災者交流会を開催してくれて、被災者同士で顔を合わせて話もでき、連絡も取れるようになりましたが、最近はお出かけできません。支援はありがたいけど、支障ばかり受けていても自立できないから。自立するために何とか野菜づくりを軌道に乗せたいと思います。野菜づくりは少しずつできていくと思いつけど、ずっと居ると部落民の名前を忘れそうになります。でも、浪江のことは頭から離れません。共助会のみんな、毎年の新年会、そして2年毎の花見はみんなやりましょう。ぜひやりましょう！

浪江のこころ通信

第7号

平成23年3月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、福島県内外に分散避難した浪江町民。長期化する避難生活、先の見えない不安の中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

こうした町民の思いをつなげるために、“浪江のこころプロジェクト”が立ち上げられました。東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会(が中心となり、全国各地のNPO、大学等の皆さんが取材を進め、浪江町との連携のもと「浪江のこころ通信」が編集・発行されます。

浪江のこころプロジェクトは、分散避難している町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信」を通してお届けし、ふるさと浪江町がかつての暮らしを取り戻すことへの願いとこだわりを発信・共有しようとするものです。

東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会は、東北圏(7県)の地域コミュニティ再生や協働のまちづくりの推進を目的として、大学、NPO、企業、経済団体、行政等が連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

「浪江のこころ通信 / 第7号」への感想をお寄せください。
【連絡先】〒976 0904 福島県二本松市郭内一丁目196-1
男女共生センター内 浪江町役場二本松事務所
「浪江のこころ通信」宛
FAX.0243 22 4261





阿久津雅信さん(権現堂)

取材者：NPO法人あきたパートナーシップ 高杉
取材日：11月24日

みんなでまた一緒に暮らしたい

大地震が起きたときはばらばらになっていた家族も、なんとか中央公園などに一時避難することができ、その後、なかなか見えない状況に不安感を抱きながらも、とにかく家族一緒に北へ北へと避難。今は、阿久津さんも奥さんも職を得て希望を持って暮らしています。



新しい職場での阿久津さん

地震は、この世の終わりかと思うぐらい揺れたよ。自分は西台の現場でエアコンの仕事をしていて、妻と息子は自宅、娘は友人宅とばらばらでした。中央公園に避難したということで確認はできたけれど、父は店の確認などでんやわんや。そうこうするうちに大津波警報がでて、とにかく山のほうに避難するよというところだったので、高台グラウンドに行き、そこで夜までいて、それから浪江中学校の体育館に移動しました。朝方、

警察が来て総理大臣の命令により「原発から20km以内は、避難してください。」と言われ、今度は津島地区の活性化センターに避難したんです。そこには新潟からの救援物資が届いていて、その素早さには感激でした。私も交通整理などを手伝いしていると午後3時くらいかな？原発の爆発による煙らしきものを見つければ、テレビのニュースを確認すると原発が爆発していました。「放射能は大丈夫なのか？」知識がほとんどない自分は、とにかく家族を連れさらに遠くに逃げられないと、とりあえず福島を目指しました。ガソリン不足、スーパーは物不足とあって、どこに行くあてがあつたわけではないので福島駅の裏で一泊、競馬場で一泊、さらに山形県の米沢のホテルに3泊と転々としてました。

聞いてください！こんな大変な状況の中でも肘折温泉（山形県）で5日間いたときにね、当時1歳の息子がはじめて歩いたんですよ。本当にうれしかったです。山形に避難中に由利本荘市の同業者から連絡があり、その方の紹介で由利本荘市の「ぼぼろっこ」というところに滞在しました。ここには由利本荘市のおかげで無料で滞在できました。その後、住む場所も確保できたので、家族7人で暮らしています。浪江町は、いいところですよ。山も海も川もあり、コンパクトで生活するにはちょうどいい大きさの町で、気候的にも暮らしやすいです。由利本荘市では皆さん良くしてくださるし、食に関する活動のつながりの知人もいるので楽しく暮らすことができます。だからといって、町を捨てたわけじゃない。今まで一緒に暮らしてきた町の人と一緒に暮らしてよかったら、最高ですね。同窓生たちもどうしているのか気になってますしね。



今野 瀬楠さん(小6)・秀哉くん(小4)(川添)

取材者：NPO法人山形の公益活動を応援する会・アミル 柴田
取材日：12月6日

今度会うときは元気で会おうね

今野さんご一家は4人家族。現在、お父さんは二本松市に単身赴任中。お母さん、瀬楠さん、秀哉くんはお母さんの実家のある山形県大江町でおじいちゃんおばあちゃんと一緒に暮らしています。

瀬楠さんの話
今は、本郷東小学校という学校にバスで通っています。前の学校よりもクラスの人数が少ないですが、先生も友だちのように接してくれて楽しく通っています。友だちのお家へもバスで遊びに行くのですが、バスが2時間に1本しかないので乗り遅れると大変です。浪江では「サンプラザ」に友だちや家族と買い物に行つて遊んでいたのですが、今は近くにお店が全然ないので不便です。
お父さんは、二本松市で仕事をしています。月2回くらいしか会えないのですが、お母さん、おじいちゃんおばあちゃんが近くにいてくれて、いとも遊びにくるので寂しくないです。お父さんとはときどき電話で話しています。帰ってきたときは、オセロを一緒にしたり、買い物や遊びに行くのが楽しみです。
地震の後、仲の良かった友だちとばらばらになっちゃったけれど、この前福島市と二本松市の仮設住宅で暮らしている友だちに久しぶりに会えてとてもうれしかったです。浪江小学校の先

生も手紙やスキー合宿のときの写真を送ってくれました。先生、ありがとうございました。浪江に戻ったら前のように、一緒にゲームをしたり、みんなで買い物に行ったり、また友だちと遊びたいし、浪江のおいしいくらややお寿司も食べたいです。今度会ったときは、みんな元気で会いたいです。
秀哉くんの話
地震が起きたとき、小学校にいて帰りの会をしました。すぐにグラウンドに避難しました。泣いている子もいたり怖がっている子もいたりしたけど、お母さんがすぐに迎えに来てくれて安心しました。
今一番楽しいのは、友だちと遊んでいるときやお父さんが帰ってきたときに家族で出かけることです。今は近所の友だちのお家から自転車で帰ることも外で遊んだりすることがおもしろいです。これから山形は雪が積もるので大変だけど、雪だるまが作れればうれしいです。友だちと冬休みは雪で遊ぼうって約束しています。最近、山形



大江町のお母さんの実家にて(左：瀬楠さん 右：秀哉くん)

の方言にも慣れて自分も話せるようになりたい。
浪江町のお祭りといえばたくさんのお祭りがあって、なみえ焼きそばもまた食べたいなあ。あと、請戸港の鮭をとるところを見学に行つたことも思い出です。この前、仙台にいる友だちに会うことができて、とても元気にになりました。まだ会ってない友だちもいるので元気がどうか知りたい。また一緒に遊びたいです。



山本江利子さん(樋渡)

取材者：NPO法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ 風間・鍋嶋
取材日：12月2日

「十日市」で友だちに会えてうれしかった

4月3日から3人の娘たちと千葉県市原市五井のアパートで生活しています。夫は福島に単身赴任中です。長女の花音は小学4年生、次女の花奏は幼稚園の年長組、三女の響花は3歳です。夫が音楽好きで、三人とも音楽にちなんだ名前をつけました。

震災後、福島県内の避難所を転々としてきました。パンとおにぎりだけの食事の繰り返しとお風呂に入れなかつたこと、未娘の夜泣きがひどく、私と母とで交代で抱っこしていたことなど思い出されます。3月半ばに、東京の義妹のマンションに避難、半月間暮らししました。おかげいで暮らす大変さはありましたが、蛇口から水が出る暮らしは、ありがたかったです。

ここでの生活は、車がなくて買い物など不便を感じています。長女に妹たちの世話を頼んで留守番してもらい、私一人で急いで買い物に行くこともあります。次女の幼稚園の送迎も、三女と私の3人で路線バスを利用して行きます。でも、長女が妹たちの面倒をよく見てくれるので、

とても心強いです。夫は月に2回は帰ってきます。夫の負担を考えると、今はそれ以上のことは望めません。できるなら浪江に帰って、家族一緒に暮らしたいですね。

子どもたちは、浪江の小学校や保育園の先生や友だち、おじいちゃん、おばあちゃんに会いたいと言います。長女は、浪江のお友だちと文通をしています。学校のことなどを書いているようです。私も、浪江の職場の方々には良くしていただいたので会いたいですね。11月に二本松で開催された「十日市」では、友だちや職場の人たちと会うことができ、とてもうれしかったです。

子どもが小さいので大変なこともありますが、でも、おかげいの人たちに支えられて何とかできています。全国に散らばっている学生時代の友人たちとは、mixi(ミクシー)で連絡を取り合っていて、必要な物を伝えると集めて送ってくれます。当初、千葉では避難者の受け入れ体制ができておらず、民間の住宅を探して、すべて自費での



左から奏ちゃん、響花ちゃん、江利子さん、花音ちゃん



栃本 信重さん(立野)

取材者：中越沖復興支援ネットワーク 水戸部
取材日：12月6日

戻れるものなら明日にでも 戻りたい気持ちです

浪江町でガス屋さんに勤務していた栃本さんは、被災直後から町内のポンベの点検等に奔走した。12日には南相馬市小高区にある金房小学校に避難をはじめ、その後各地の避難所を転々としたのち、新潟県に避難した。

11日の夜、倒れたガスポンベの確認等の仕事を終えて家に着いたのは午後8時ごろでした。家には富岡町に住む次男と、妻と孫がいました。被災時に浪江町にいた次男が家にいてくれたことは、今考えると非常に助かりましたし、安心できました。電気は使えませんが、ガスが使えたので次の日の朝はご飯を食べることもできました。その後すぐに避難指示の放送が



現在は妻と孫の3人で暮らしています。
(左から信重さん、楓ちゃん、操さん)

流れ、家族で南相馬市小高区の小高小学校に避難をしました。小学校は多くの避難者であふれかえっていたことを思い出します。その後、原町区の石神中学校に移り、17日には新潟県に向かつていました。次男が先に柏崎市に避難していたので、避難所の情報なども聞くことができ、たまたま、柏崎市の中央コミュニティセンターに避難することにしました。私の妹が柏崎市に住んでいることもあり、布団や毛布を集めてもらったり色々とお助けしました。その後、市内の総合体育館、民宿を経由して、現在は市内のアパートに妻の操と孫の楓と3人で暮らしています。楓は、通うことになった半田小学校にも慣れてきて、友だちも少しずつ増えているようで、一安心です。

私自身は、6月から9月まで柏崎市の非常勤職員として、働かせていただきました。草刈りや遊歩道の整備などをする傍ら、子どもたちに竹工作を教えたりもしていました。これは、勤務先が自然体験交流施設「ゆうぎ」という所で、その体験メニュー

を指導できるようにと、習ったものです。そうした経験を活かして、8月に福島市内で開催されたアスナロ幼稚園の集まりでは、子どもたちに竹工作でつくったトンボをプレゼントしました。私はそのバスの送迎などもしていたため、卒園式もできていないままの子どもたちに何かしてあげたいと感じたからです。子どもたちは非常に喜んでくれて、一生懸命作ったかきあげがありました。非常勤職員の仕事が終わった今でも、体験教室があればインスタクターとして参加したりもしています。

少しずつ柏崎市での生活にも慣れてきて、落ち着いてきた印象はありますが、やはり浪江町のことを常に考えている自分がいいます。この先どうなるかは全然分かりませんが、帰れるものなら明日にでも帰りたいぐらい、自分のふるさとに愛着があります。いつか帰れる日が来ることを願っています。最後に、自分たちも被災者でありながら復興に尽力されている行政職員の皆さんには、本当に感謝しています。

準備でした。つい最近、市原市でも借り上げ住宅の提供が決まり、12月8日に引越すことになっていきます。しばらく、ここで頑張りたいと思いますが、早くまた浪江のみんなに会いたいですね。



叶谷ヨシ子さん(請戸)

取材者：NPO法人市民公益活動パートナーズ 古山
取材日：12月8日

ここ笹谷は本当にいいところ 人情の厚さが身に染みます

津波で流されてしまった請戸の家は、大工をしている息子さんが建てた広い家で、息子さん夫婦や孫とともに暮らしていらっしやいました。畑仕事をする一方、絵手紙や老人会、筋力トレーニングなどを大いに楽しんでいました。



福島市笹谷東部のご自宅にて、たくさんの絵手紙とともに。

あの震災のときは、お友だちの家でお茶のみをしていました。津波警報の中、自転車で帰宅し、仕事が終わった息子と孫の3人で車に飛び乗り、「福島いいの村なみえ」に向かいました。翌日12日には浪江高校津島校に移りましたが、断水のためトイレも使えず、配給されたのはおにぎり1つ。寝泊まりするにも通路が狭く、大変でした。3日目には川俣町の公民館に移動し、病院勤めのため患者さんとも避難していた嫁とやつと合流

できました。その後すぐに家族4人で茨城県の子孫の家に1カ月ほど世話になり、4月下旬からは北塩原村のペンション「木になる家」で避難生活を送りました。そして6月2日に、この福島市笹谷東部仮設住宅に入居しました。とてもうれしい出来事がありました。兵庫西宮市の方から激励の絵手紙をいただいたんです。その方は、阪神淡路大震災で被害を受け、娘さんの家で半年間の避難生活をされた経験をお持ちで、家族や住む家のあるありがたさを伝えてくださいました。見知らぬ方にこんなにも気遣っていただいたことに、感謝で涙が止まりませんでした。私も絵手紙を描いているのでお返しをしたところ、段ボールで心尽くしの品と丁寧なお見舞いを送ってくださいました。今でも絵手紙でやり取りをさせていただいています。

また、絵を描きに表に出たときに、大木に見事な花が咲いていて、その花の名前を通りがかりのご夫妻に教えていただきました。それが縁でお家を訪ねたの仕上げに区切りがついたら、今度は私の今後は、そして業を定めねばと思っています。福島市京月窯も大堀同様、人の集まる場に



近藤 公孝さん(大堀)

取材者：NPO法人市民公益活動パートナーズ 佐藤
取材日：12月9日(京月窯再興初の火入れの日)

妻、京子さんの京月窯再興にこぎつけ、 次は自身の今後も

大堀に住んでいた「福島いいの村なみえ」の支配人の近藤さんは、原発事故後転々とした後、12月から妻京子さんの大堀相馬焼京月窯兼自宅として、福島市飯坂町平野の古民家に京子さんと義父母と暮らし始めました。「福島いいの村なみえ」の今後に奔走しつつ、京子さんの京月窯再興をアシスト。「ここを窯元の間でもあるけど大堀同様人々のコミュニティの場にもしたいんだ。」と語ってくださいました。



妻京子さんの作品の前で。

京月窯の火を福島で再び。実は今日は、朝からここに作った窯に初めて火を入れました。女房は窯から離れられないんです。新しい窯の加減を知るため、時間を追って窯の温度を記録したり、窯の状態を逐一観察してらるんです。あれから9カ月、やっとここまでこぎつけました。先の見えない避難生活を続ける中、女房が「このままでは居られない。」と言いつつ出ていって、不安もありましたが、私もどこかで「このままで居るのは違う。」と思うようになり、福島でまた窯が持てないか、あれこれ探しました。そんなとき、この地の古民家を紹介され、一目で気に

入りました。大堀でも築150年の家に住んでいましたから、大堀の家をほうふつとさせるこのたまたまに、ここしかないと思いました。「福島いいの村なみえ」のこれまでを仕上げ。私の今は、「福島いいの村なみえ」の止まってしまった時を、仕上げる日々です。震災直後は、「福島いいの村なみえ」で避難してきた方々へ炊き出しをしました。原発事故後は取る物も取らずの避難で、当初は書類も何も中、散り散りになった「福島いいの村なみえ」のスタッフの今後に、慣れぬ役所回りに奔走しました。そんなスタッフとは今も交流があり、ホツとするひとときです。また、ふと、遠方から「福島いいの村なみえ」を常宿として幾度となくご利用いただいたお客さまを思い出します。「どうされているかな。お会いしたいな。」と思います。無我夢中でしたが、落ち着いたら、喪失感に襲われました。今までの暮らしが変わってしまったこと。人生設計が狂ってしまったこと。すべてに禁じ得ない虚しさを感じます。これから「福島いいの村なみえ」



福島市飯坂町平野の京月窯 (看板も移設)

の仕上げに区切りがついたら、今度は私の今後は、そして業を定めねばと思っています。福島市京月窯も大堀同様、人の集まる場に

連絡先一覧

- 浪江町役場二本松事務所
〒964-0904
福島県二本松市郭内一丁目196-1
(福島県男女共生センター内)
TEL 0243-62-0123 FAX 0243-22-4261
- 浪江町役場二本松第二事務所
〒964-0904
福島県二本松市郭内一丁目81
FAX 0243-23-7970
- 浪江町教育委員会
TEL 0243-62-0301
- 二本松避難者生活支援班
TEL 0243-62-0302
- 福島出張所
〒960-8601
福島県福島市五老内町3番1号
(福島市役所9階西側)
TEL 024-535-0750 FAX 024-535-0753
- 本宮出張所
〒969-1203
福島県本宮市白岩字堤崎494番地22
(本宮市役所白沢総合支所1階)
TEL 0243-44-1185・1186
FAX 0243-44-1187
- 桑折出張所
〒969-1611
福島県伊達郡桑折町字東大隅18番地
(桑折町役場2階)
TEL 024-582-2130 FAX 024-582-2135
- いわき出張所
〒970-8026
いわき市平字堂根町1番地の4
(いわき市文化センター2階第4会議室)
TEL 0246-24-0020 FAX 0246-24-0026
- 南相馬出張所
〒975-0039
南相馬市原町区青葉町2-62-2
(旧東北農政局福島農政事務所南相馬統計・情報センター)
TEL 0244-23-1112 FAX 0244-23-1114
- 浪江町議会事務局
〒964-0917
福島県二本松市本町一丁目60番地の2
(安達地方広域行政組合自治センター2階)
TEL 0243-22-9531 FAX 0243-22-9532
- 浪江町社会福祉協議会
〒964-0904
福島県二本松市郭内一丁目81
(浪江町役場二本松第二事務所内)
TEL 0243-62-0877 FAX 0243-23-7970

空間放射線量測定結果

町が独自に実施した空間放射線量測定結果をお知らせします。

☎ 災害救援班 (放射線管理) TEL 0243-62-0123

(測定地: 地上高 H=1.0m 単位: $\mu\text{Sv/h}$)

浪江町内小中学校等 ※浪江町内は、隔週で測定

測定地	測定値 (11月18日)	測定値 (12月2日)	測定値 (12月16日)
役場津島支所	7.77	6.80	6.97
津島小学校	8.07	7.60	8.11
津島中学校	10.20	9.63	10.60
浪江高等学校津島校	14.00	14.30	15.50
苅野小学校	8.41	7.81	8.24
川添字中上ノ原地内	7.06	6.62	7.00
大堀小学校	6.50	6.64	6.78
浪江中学校	9.76	9.37	9.92
ふれあいセンターなみえ	9.10	8.58	9.14
浪江小学校	1.31	1.21	1.29
浪江高等学校	3.87	3.57	3.90
藤橋字亀下地内	1.70	1.60	1.70
浪江町役場	0.65	0.57	0.54
北幾世橋字北中谷地地内	0.68	0.66	0.64
幾世橋小学校	0.54	0.50	0.55
請戸小学校	0.30	0.28	0.30
浪江東中学校	0.57	0.46	0.54

仮設住宅等 (二本松市)

測定地	測定値 (11月28日)	測定値 (12月5日)	測定値 (12月12日)
郭内公園仮設住宅	0.44	0.41	0.37
塩沢農村広場仮設住宅	0.19	0.19	0.20
安達運動場仮設住宅 (Aブロック)	0.54	0.53	0.54
安達運動場仮設住宅 (Bブロック)	0.37	0.38	0.36
浪江小学校 (旧下川崎小)	0.54	0.57	0.50
浪江中学校 (旧針道小)	0.45	0.45	0.44
建設技術学院跡仮設住宅	0.30	0.29	0.26
太平農村広場仮設住宅	0.43	0.41	0.36
杉内多目的運動広場仮設住宅 (中央西)	0.24	0.22	0.23
杉内多目的運動広場仮設住宅 (中央東)	0.25	0.25	0.21
旧平石小学校仮設住宅	0.29	0.31	0.28
杉田農村広場仮設住宅	0.63	0.56	0.62
杉田住民センター仮設住宅	0.34	0.33	0.33
永田農村広場仮設住宅	0.16	0.15	0.13
岳下住民センター仮設住宅	0.36	0.37	0.36

仮設住宅 (桑折町、福島市)

測定地	測定値 (12月1日)	測定値 (12月8日)	測定値 (12月15日)
桑折駅前仮設住宅 (第一集会所)	0.10	0.09	0.11
桑折駅前仮設住宅 (第二集会所)	0.16	0.15	0.12
宮代第二仮設住宅 (西側)	0.36	0.33	0.24
宮代第一仮設住宅 (集会所)	0.38	0.37	0.24
北幹線第一仮設住宅 (北集会所)	0.15	0.14	0.15
北幹線第一仮設住宅 (南集会所)	0.15	0.14	0.15
笹谷東部仮設住宅 (東集会所)	0.19	0.16	0.18
笹谷東部仮設住宅 (西集会所)	0.28	0.25	0.25
南矢野目仮設住宅 (北集会所)	0.18	0.15	0.15
南矢野目仮設住宅 (南集会所)	0.15	0.11	0.12
森合仮設住宅 (集会所)	0.38	0.33	0.32
しのぶ台仮設住宅 (中央)	0.11	0.11	0.11
旧佐原小学校仮設住宅 (中央)	0.10	0.09	0.07

仮設住宅 (本宮市)

測定地	測定値 (11月29日)	測定値 (12月6日)	測定値 (12月13日)
恵向仮設住宅 (集会所)	0.28	0.20	0.22
恵向仮設住宅 (談話室)	0.48	0.44	0.45
高木運動仮設住宅	0.34	0.39	0.37
小田部仮設住宅	0.28	0.25	0.28
石神第一仮設住宅	0.46	0.36	0.30
石神第二仮設住宅	0.44	0.34	0.30
和田石上仮設住宅	0.26	0.24	0.23
栗木平仮設住宅	0.54	0.24	0.27



平成24年1月 552
毎月1回1日発行

発行・編集 福島県浪江町役場総務課
福島県二本松市郭内一丁目196-1 男女共生センター内
TEL 0243-62-0123(内) FAX 0243-22-4261
http://www.town.namie.fukushima.jp



ホームページやフェイスブックは、
携帯からもご覧いただけます。
QRコードをご利用ください。

